

魅力ある学校づくり協議会 (上板橋第二中・向原中) ニュース

第8号

発行日：平成 27 年 4 月 14 日
開催日：平成 27 年 3 月 23 日
発行：板橋区教育委員会事務局
新しい学校づくり課
学校配置調整担当課長
電話 3579-2624

上板橋第二中と向原中の通学区域の小学校の保護者の方から、協議会の内容が分からず不安であるという声をいただいております。そこで、小学校の保護者の方を対象にした説明会を開催する予定です。詳細が決まり次第、改めてご案内させていただきます。

教育長挨拶(抜粋)

冒頭で教育長から、挨拶を述べました。

昨年の 7 月 22 日に協議会が開催され、これまで精力的に活発な議論をしていただいたことに深く感謝を申し上げます。様々な意見交換をしていただき、内容についてはその都度報告を受け、教育委員会にも報告しております。前回の協議会では是非学校を残してほしいという声もありましたし、議論を踏まえて話を前に進めるべきだというご意見もいただいております。私どもとしてもこれまでの議論の積み重ねを踏まえつつ、「いたばし魅力ある学校づくりプラン」に沿いまして学校の統合と改築を考えていかなければならないと思っています。両校の地域の皆様が 1 つの地域として 1 つの学校が作られますので歩み寄っていただき、教育委員会としても両校の子どもたちにとって最良の結果となるように総合的な判断をしていきたいと思っています。本日は皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

これまでの協議会の総括

会長からこれまでの協議会の総括を行いました。

上板橋第二中、向原中両校とも建築後 60 年が経過しようとしており、大規模改修または改築の時期が迫っていることと、向原中の小規模化という 2 つの課題の答えを出すために協議会が発足しております。両校においては設立当初から地域に支えられ愛されてきた学校であると感じていますが、この地域で 2 校併存していくことは極めて難しく困難であると教育委員会は考えています。現状を踏まえますとこのまま議論を継続して両校が改築、改修ができずに存立していくということは向原中の小規模化も改善できないという事態を招くと考えます。やはり教育活動を一番に考えると、期限を設け結論をまとめて次の段階に進んでいくものと考えます。学校の敷地の決定にあたっては、子どもたちの教育環境の面から先日お示した文部科学省の校地面積の基準を満たすもので、かつ、部活動はじめ多様な活動を行う中学校においては、より広い校庭を確保する必要があるため事務局としてはより広い向原中の校地が適していると考えています。統合校については、他の学校の事例では児童・生徒の多い学校を統合先としてその学校を使用する事例が多いですが、今回の統合では、事務局の案でいきますと規模の小さな向原中の校地に統合校を建設という形になります。したがって、現在の向原第二中の在校生、卒業生あるいは地域住民の皆様への配慮から校名は上板橋第二中が望ましいという提案をいたしました。今後 2 校に進学する児童への影響もあります。両校を存続したい、あるいはそれぞれの学校に通いたいという気持ちは十分承知していますが、議論を進めていただくということから協議会委員の皆様には一定のご決断をしていただかなくてはならないと考えています。

意見交換

教育委員会事務局が提示した統合案について、改めて意見交換を行いました。

【事務局案】

上板橋第二中学校と向原中学校を統合し、校名は「上板橋第二中学校」とする。

校舎の建築期間中は、上板橋第二中学校の校舎を使用し、向原中学校校地に建設する新校舎完成後、新校舎に移転する。

委員：すでに事務局案はお示しいただいておりますが、生徒数や教育環境、改築の必要性を考えると会長の言うとおりの統合はしていかなければならないと思います。それをどうするかについては皆様思いがあると思います。どちらに建てるという話になると物理的な話になり、かなり決まってくる可能性があると思いますが名前に関しては色々思惑が出てしまうと思います。今後検討したいこともありますが、すでにどの方向でやるかをある程度考えていかなければいけないと思っています。協議会としてどの案にするか決め方も含めて考えていかなければいけないと思っています。

委員：様々な事情で向原中の生徒数が減少する状況が続きました。この学校規模で、求められる学校教育ができるのかと思ひ、上板橋第二中と統合すべきと考えています。普通は統合される学校に新たな校舎を建てるので、今回は非常に特異なケースであると考えます。このままですと延々先延ばしになってしまうので、学校の適正規模もですが、文科省の基準、防災面等考えると向原中の校地が適正であるとなれば、校舎を建てるのは向原中の土地であると思ひます。町会もそういう風な流れをたどらざるを得ないと言っています。議論をまとめて具体的にどう進めるべきかを考える方がよいと思ひます。

- 委員：事務局案で進めるべきだと思います。これ以上議論しても進まないと思います。校名についても会長がおっしゃったように考えていけばよいと考えておりますので魅力ある学校づくりの内容を検討しなくてはならないと思います。事務局案ですと向原中の校地に新しい校舎ができるということですから、上板橋第二中の跡地をどう活用するか地元で考えさせていただき、魅力ある学校づくりの内容の検討と同時進行で検討していただきたいです。
- 事務局：地元を支えられてきた学校ですので皆様のご意見を聞きながら、跡地活用についてはコミュニティの活性化に繋がるような場所としていきたいと考えています。どのやり方が一番よいのか同時に考えることも検討したいと考えています。
- 委員：第6回にて大体決まってきたと思いますが、第7回でまた振り出しに戻った感じがありました。ただ時間だけが過ぎてしまうような気がするので、私としてはこれまで話したとおり魅力ある学校づくりということでやらざるを得ないと思っています。皆さん母校を残したいという気持ちがあると思いますが、状況を色々判断し、耐震性、小規模化もありますので、時代の流れとしてやらざるを得ないと思います。皆さんや会長が言っているとおり、事務局案でやっていくのがベターだと思います。事務局案その通りで考えております。
- 委員：文部科学省が定める確保すべき校庭の面積基準を下回ると何かあるのでしょうか。
- 事務局：罰則規定については特にありません。平成14年の基準ですがそれ以前に建てられ基準を満たしていない学校がいくつかありますが今後学校を作っていく場合は基準に沿って作っていくということです。
- 委員：事務局の結論ありきで結局は統合案に段々傾けるような話になっています。先行き2校とも少子化で生徒数が減少していくことを考えると上板橋第二中の校地で足りると思いましたが、ですから、あえて文部科学省の基準に適した向原中の土地を利用せずそのままでもよいと考えます。
- 事務局：校庭の広さだけでなく、学校の適正規模と老朽化に伴う改築の観点を併せて考えていかなければなりません。
- 委員：向原中に平成21年に新校舎が建っていればこのようなことはなかったかどうかは分かりませんが、生徒数が減ったことが原因であると思います。コーシャハイム向原は第2期が完成し、第3期もできあがるのですが、子どもたちも増えてくるかと思えます。教育委員会の方たちも一生懸命やってくさっているのだから今からひっくり返すわけではないですが、今回で8回目ですので色々今まで言わせていただきましたががんばってください、よろしくお願ひします。
- 委員：同窓会は大きい学校が小さい学校に行くことに納得していません。統合となると小茂根3〜5丁目町会、大谷口の方はもう向原中に行かない、そうすると役所が想定している生徒数は確保できないのではないかと、また、最初から向原中ありきで話をしているのではないかという意見を言っている方もいました。仏作って魂を入れずではないですが、生徒が来ない学校を作るより、上板橋第二中に作った方が、生徒が集まってくるのではないかと思います。しかし、実際は違う方向に進んでいるので今回の話も同窓会に話をするのは心苦しいです。同窓会は校地は上板橋第二中でも、作り方を変えればいくらでも対処ができるのではないかと思います。
- 事務局：同窓会でご要望がありましたら、今考えられる児童・生徒推計や面積などの詳細な説明をさせていただきたいと思ひます。
- 委員：協議会に大谷口地域を呼ばない理由は何ですか。開催時間を休日や昼間の時間帯に変更できないでしょうか。
- 事務局：当初通学区域が入っている町会を全て協議会委員にすることを考えましたが、両校バランスのとれた人数で推薦いただき今のメンバーに決まっています。開催時間についても本協議会で調整のうえ今の時間でスタートを切っていますが、直接話を聞きたいというご要望がございましたら対応させていただきたいと思ひます。
- 委員：向かい合っているのでもどうしても対立した話合いしかできませんが、全体の話はある程度集約されていますので新しい学校の話をする方向に持っていくべきだと思います。仮に向原中と上板橋第二中のどちらの校地に建つかの話は別として、「改築」した赤塚第二中は立派であり「改修」した学校との差がある。赤塚第二中のような建物を作ってしまうと見本として見られがちですが、「改築」して新しく学校ができた際に題意どおりの魅力ある学校ができたのであれば環状七号線より北側でも来るはずですよ。
- 事務局：板橋第二中は「大規模改修」を行っており、中身を改修していくものです。今協議させていただいているのは「改築」を考えています。「改築」というのは0から建てるということです。赤塚第二中に負けないような学校を作っていけたらと考えています。
- 委員：これまでの流れで向原中の敷地に新しい学校を建てるということになっているでしょうし、結論を出さなければならぬと思ひます。小中連携といった内容よりも校地面積の文科省の基準面ばかりの話に

なっていましたので前回の協議会で話が戻ったのだと思います。皆さんのおっしゃるとおり、中身の話をしたいので、結論を出さなくてはならないなと思っています。運動場面積に関する文科省の基準ですが地域の実情に応じてその限りでないという一文が入っていると思います。それは今後建てていくうえで適用されないのですか。両校併存は難しい、小中一貫はこれからということを考えてもう事務局の案というのをもいたしかたないと思います。

事務局：実情によってその限りではないとは書いてありますが、今回協議されている上板橋第二中と向原中では、より校地が広い向原中がある中で、狭い校地の上板橋第二中を選択するということはなかなか説明が厳しいと思います。

委員：校舎を建てるのに部活その他の関係から、できるだけ広いグラウンドの方が適しています。関東大震災のような地震があった時に広く使える部分があることまで考えたうえで建てるのとすると、できるだけ利便性のよい、生徒たちがゆっくり過ごせるような場所を作っていってほしいです。校名その他に関しては色々な意見がありますが、できるだけ皆さんがなじんでいけるようになっていけばいいと思います。どちらに校舎を建てるにしろ、利便性がいいように通学路の整備等をしていってほしいです。

委員：私がPTA会長を務めていたとき、たくさん統合の話を聞きました。どうしたら生徒数を増やせるかPTAと話をしましたが、そう簡単ではなかったです。今回、魅力ある学校を作るとは生徒数を増やすチャンスだと思います。全国的に少子化で人が減っている中でいかに増やすかということはこういう機会でないといけないのではないかと思います。新しい学校による魅力、行きたいと思える校舎や環境に生徒が集まってきますし、親御さんもそこに通わせたいと思います。ではどう魅力のある学校にするのか、夢のある話をしたいです。我々のコンセンサスをとるのも大事ですが、板橋区としてこの地域をどう活性化させるかのビジョンを考えてほしいです。

委員：近隣小学校の保護者への説明を最初にしてほしかったです。今後行う説明会の際に保護者の声を聞いて意見として吸い上げてほしいです。保護者は安全な校舎があるだけでなく経路を含めて安全に通えることが一番だと考えます。色々検証していただけたらと思います。また、通学区域が大きく変わるのでとはいう不安要素があります。また、敷地の広さの差は建物の内容の差としてどのくらいになるのか示していただかないと納得できない部分があると思いますし、ビジョンの提示にもつながるのではないかと思います。

事務局：昨年の6月に地域説明会を行いましたがお心配があるということは我々も配慮が足りなかったと思っています。今後小学校にも説明していきたいと思っています。また、建物の内容の差など、どこまでお示しできるか検討していかなくてはならないと思います。

委員：概ね事務局案に賛成です。校地は広い向原中、校名は上板橋第一、第三があることもあり上板橋第二中にすることが自然だと思います。しかし、わくわく感を考えると新しい校名は捨てがたいなと感じています。アンケートをとって校名を募集するのはよいと思います。あと、今感じていることですが、実は決まっているのにここで話合ってみんなで決めたように持っていきたいのかな、という感じを受けました。今後協議をする際に、今教育委員会でこういう路線でいきたいと言う風に考えていることがあればご意見をいただき、私たちが肉付けをする、どうしてもこれはいやだよ、という案を覆すだけの意見が出されれば深く議論していく必要性はあると思います。また、子どもは校地も校名もどうでもよいから中身だと言っていたので、中身について話をしたいと思います。

事務局：教育委員会は色々な情報・データをもっていましたので、正直に申し上げて方向性を持っていました。しかし、協議会委員の皆様は校地や生徒数の推計などの情報をお持ちでないと思い、まずは情報を発信して共有し皆さんの意見を吸い上げる必要がありました。皆様で同じ情報を共有してそこから話を進めるべきとの考えから協議会を始めさせていただきましたのでご理解いただければと思います。

委員：2つの学校を1つにしないでほしいので、お互いの歩み寄りが大事だと思います。待ったなしの状況で先延ばしにしていくことはできないでしょうし、小規模化を残すことはよくないと思います。平成28年度の入学案内が夏ごろ各家庭に送られます。1,2か月先延ばしにするだけでも親御さんは生徒を他に行かせると思います。決まれば地域の学校ですから子どもたちは近い学校に行くと思います。校地が広いというだけで魅力があると思います。部活をするにしろ何にしろ、少しでも広いところで子どもたちが過ごせればという風に考えています。事務局案のとおり校名は上板橋第二中にして進めるべきだと思います。場所も校名も決めないで中身の話はできないと思います。協議会で話をまとめるのも難しいところ、もっと多くの方の意見を聞くことで結論が先に延びることは怖いのです。私たちが決められたということは大きいことではないかと思います。そのための代表であると思います。

委員：魅力ある新しい学校づくりには、事務局案で示されているとおり、子どもたちが学習する場として広くて安全な校地に校舎を建てることは相応しいと思います。部活動等をするにあたって広い土地が

あるということ相応しい土地だと思います。校名について、ここは大谷口と向原の地名であるのでそこに上板橋という名は相応しくないという意見があります。これから通うのは子どもたち自身ですから地域の意見を尊重することも大事ですが、これから通う子どもたちが新しい学校に通うということ胸に抱き、わくわくして通えるような楽しみにできるような学校づくりをしていただきたいとします。校名は新しい学校ということで募集の仕方はあるでしょうが、こっちに建つからこっちの名前というのは条件を並べるようではないというような保護者、生徒の意見がありました。新しい風、魂、命を吹き込む子どもたちが未来に向かって通えるような新しい学校づくり、校名を考えていってほしいと思います。

委員：意見は色々ありますが2つを1つにするということはそれぞれが妥協しなかったら1つにならないと思います。そうでないいつまでも平行線になり、繰り返しになると思います。やはり部活動がのびのびとできる場所、これは向原中しかないと思います。部活動は学校教育の柱であると思いますし、学校を選ぶ基準であると思いますので、向原中の校庭が広くていいと思っています。ただ、2つを1つにするときお互いに妥協しないと話はまとまらないので、あちらに移るのであればこちらも何か残してもらわないと、引くに引けない部分があると思います。事務局の案が一番バランスのとれた意見ではないかと思います。

委員：それぞれの学校に対して愛着、思い入れがたくさんあると勉強させていただきましたが、ここでタイミングをはかって結論を見出し、次の段階へと進む時期に来ている気がします。今度入ってくる向原中新入生約30数名入学してくれるので、このタイミングで方向性が見いだせれば、向原中教職員もそれに向けて努力していけるとしています。今の小学4、5年生については向原中にずっといられなくなる可能性があります。たとえ1年であろうか2年であろうか統合するまでの間で、向原中でできる教育を精一杯しつくし、次の学校へつないでいくという覚悟を決めて、新年度になったら、保護者の方や児童にも伝えながら進めていきたいと思っています。やはり先延ばしにするとずるずるいってしまうので教育委員会の提案について私も賛成したいと思っています。

会長：今、事務局案でよろしいのではないかと、ということについて積極的に賛成される方はいらっしゃらなかったと思います。ですが、向原中についてはやはり学校名についてこだわりがあり、上板橋第二中については校地にこだわりがあり、それぞれ意に反して決断を下さざるを得ないと思います。協議会の委員が総意でこの案を作ったというよりは、教育委員会事務局で示した案を了承して下さったと思っています。そういった経緯も踏まえて事務局案でいくことについて皆様に一定のご決断をいただいたということを教育委員会に報告をさせていただきます。今日出た宿題、特に魅力ある学校づくりについて今後早急につめていかなければいけない課題ですので、今回は事務局案で進めさせていただくということでよろしいでしょうか。

委員：小学校の保護者の意見というのはヒアリング等できないでしょうか。

事務局：協議を重ねた経過を説明する予定です。全ての方の意見を集約することは非常に難しいと思います。ただ、意見としては貴重なものもあると思いますので報告会をするなかで、反映できるものについては検討したいと思います。近隣の小学校から要望がありますので、説明会を開催したいと思います。

教育長：事務局案で、苦しいながら方向性として確認させていただき、本当にありがたく思います。皆様それぞれ組織に報告をしていただくのもご苦労をいただくことと思っています。2つの学校を1つにするという方向性のなかで、それをまとめていくのは私も教育委員会事務局の責任であると思っています。今後教育委員会へ報告し、教育委員会としての一定の方向性を決めていただく、そして次回の協議会でその結果についてお示しさせていただきたいと思っています。それから、本日跡地活用をはじめ、いただいた意見を踏まえて進めていかなければならない点についてもご指摘いただきました。今後は中身の話になりますので、さきほど夢のある話とのご発言もありましたとおり、ぜひ夢のある学校づくりについても議論を発展させていただきたいと思っています。今後ともよろしくお祈りします。

次回予定

平成27年4月17日(金) 午後6時30分～ 向原中学校 2階 会議室
協議内容 協議会の中間のまとめ等について

発行元 板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり課 学校配置調整第一グループ
電話 3579-2624 FAX 3579-4214

※魅力ある学校づくり協議会(上板橋第二中・向原中) ニュースは区ホームページからご覧いただけます。
http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/063/063153.html